

令和6年度東京都立三田高等学校 学校経営報告

Have Wings And Fly High! - 教養・探究・立志そして世界へ -
国際理解教育・探究イノベータ推進・DXハイスクール

目指す学校<教養・探究・立志そして世界へ>

(1) 学校の教育目標＝教養人・指導者・開拓者の育成 ア 幅広くしなやかな知性と潤い豊かな感性をもつ教養人 イ 自主・創造の意欲と忍耐力・協調性との調和のとれた高い徳性を持つ指導者 ウ 自己を厳しく律しつつ、常に進取の気概をもって社会貢献できる開拓者	(2) 目指す生徒の将来像＝協働・創造・自立できる人材 ア グローバル社会の中で、多様な価値観をもった人々と英語をツールとして、協働して課題解決に当たれる人材 イ 高い志を有した教養人・指導者・開拓者として、仲間と協働し、ゼロから納得解を創造できる人材 ウ Plan・Do・Check・Actionの各能力、且つ、言語能力を持ち合わせ、社会で自立して生きていける人材 エ 専門性を有し、AI時代を生き残ることのできる人材 オ AIにない読解力と調整力を有した人材 カ 心身ともにタフな人材	(3) 学校の教育目標を達成するための基本方針 ア 問題・課題の発見から解決に到る主体的な学びを通し、個性・独創性の発現につながる質の高い学力を育む。 イ 体験活動、集団活動を通して、自主・自律の心、集団や社会の一員として自覚、社会貢献の精神を育む。 ウ キャリア教育を通して自己：：理解を促し、チャレンジ精神や進路実現に必要な資質能力を育む。 エ 国際理解教育を推進するとともにわが国の伝統・文化に対する理解を促し、真の国際人・教養人を育成する。
--	--	--

	組織	●成果と課題 ○次年度へ向けて A：大いに達成 B：概ね達成 C：達成できなかった		
中期的目標と方策	全体	(1) 社会で活躍する人材の育成(学習指導)	数値目標 ○学校評価アンケート「学習指導の満足」の生徒肯定評価85%以上 結果：88.2%であった。	B
			コメント ●主体的な学びについて、観点別学習状況の評価を改善し、評価のしかたと授業改善の視点を結びつけることができた。個の生徒に応じた学びに応じた指導を改善し、授業の質を高めていく必要がある。 ●生徒一人1台端末の活用、アクティブ・ラーニングは昨年度より一層推進できた。 ●課題研究を年間計画に基づき、継続的・計画的に実施できた。今後さらに指導の充実が必要である。 ○観点別学習状況の評価について、教科や教科間の話し合いを通して、さらなる改善を実施していく。 ○端末の活用について、学校全体で情報交換をしていく。	
		(2) 「時を守り、場を清め、礼を正す」指導の励行(生徒指導) ・高い志の進路指導(進路指導)	数値目標 ○学校評価アンケート「生活指導」の生徒肯定評価80%以上 結果：基本的生活習慣77%、規範意識91.1%、品位ある行動90.1%であった。 ○「進学指導・キャリア教育等」の生徒肯定評価85%以上 結果：92.5%であった。	A
			コメント ●生徒主体に行事を運営することができた。継続して行っていく必要がある。また、入学者の男女比率を鑑みながら行事について精選していく必要がある。 ●学年ごとに時期に応じて進路ガイダンスを複数回実施することができた。進路部と学年の情報共有をすすめ、評価と指導の一体化を十分行うことが大切である。 ○新教育課程の入試や共通テストへの対応のための情報収集を指導改善を更に充実させる。	
		(3) 戦略的な広報活動の展開(募集対策)	数値目標 ○応募倍率2倍の維持 ○更新計画に基づいたホームページの管理 結果：推薦に基づく選抜4.08倍、学力に基づく選抜1.74倍であった。	B
			コメント ●学校説明会等を対面で実施回数を増やし実施した。その結果、4918名の参加者があった。 ●HPを積極的に活用し、学校広報に努めた。 ●外部団体主催の学校説明会参加の機会を拡大した。(10回参加、563名対応) ○HPの随時更新により、在校生の部活動や本校の行事や教育活動PRを積極的に・効果的に伝える。	
	(4) 信頼に基づく安心・安全な学校	数値目標 ○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% ○サービス事故ゼロの維持 結果：95.5%であった。時間講師による答案管理事故1。	B	
		コメント ●学校行事において生徒に主体的に取り組ませ、達成感と充実感のあるものにすることができた。 ●災害を意識した避難訓練と講和を実施し、防災教育の推進を図った。危機管理マニュアルの見直しを含め発災に備える指導を行う必要がある。 ○体罰根絶、いじめの未然防止、サービス事故ゼロ等に向けて、毎月、徹底を図る。 ○会議の時間短縮やICTの効果的な活用ペーパーレス化で、ライフ・ワーク・バランスのある職務に取り組む。		
	各教科	(5) 質の高い教育の提供	数値目標 ○学校評価アンケート「学習指導の教材や工夫」の生徒肯定評価85%以上 結果：81.4%であった。	B
			コメント ●生徒一人1台端末を活用した授業を展開し視覚的に訴え主体的に取り組む授業は推進でき、主体的対話的なペア・ワークやグループ・ワークを多く取り入れた授業展開を多く実施することができた。 ●各行事の実施を通して協働的・創造的なクラス活動が実現でき、その経験が個々の成長にも繋がった。 ○一人1台端末、Microsoft Teams等を更に活用した授業を実践する。 ○行事を更に充実することで、学力だけでなく協働性や創造性を獲得させるとともに、切磋琢磨・仲間意識を育むことで個々の成長を促し進路実現を図る。 ○各学年ともに学期が進むごとに遅刻者が増加する傾向にある。対話による指導を繰り返し学習方法を取得させ生活リズムを改善させることで、学習習慣と主体的に判断する力を育成していく必要がある。	
今年度の取組	各学年	自らの進路を主体的に考え、変化し続ける世界に対応して力強く生き抜いていく力を身に付け。そのために、継続的・計画的な指導を通じて、生徒一人一人の進路希望の実現を図る。	数値目標 ○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% 結果：88.5%であった。	B
		コメント ●求める生徒像において、生徒に求める資質・能力は伝えられているが、本校の指導方針を明確に中学生や保護者に伝える方法や資料について検討する必要がある。 ●生徒が安心して学校生活を送れているが、面談や対話的指導を通して個別の進路実現に向け対応していくことが必要である。 ○学期に1回以上面談を設定し、進路実現に向けたきめ細かい指導を継続する。 ○進路指導の全体計画に基づき、進路指導部と連携を密に図りながら組織的な進路指導を継続する。		
	教務部・DXチーム	・「主体的な学び」の構築 ・明確な目的意識をもって自ら学業に励む生徒の育成 ・新学習指導要領への対応 ・観点別学習状況の評価への対応	数値目標 ○入学選抜業務に関する事故ゼロ 結果：事故ゼロ ○新学習指導要領における「観点別評価」の実施 結果：混乱なく進められた。今後継続した評価項目や内容の精査を実施することが必要である。	B
		コメント ●入学選抜業務、事故ゼロを目指して進行管理を行うことはできたが、業務の共有と分担を明確にした上で効率化と正確さ担保する必要がある。 ●観点別学習状況の評価の情報共有や研修会を通して、改善の視点を共有することができた。 ○入選業務計画と、複数名による複数回の点検体制を計画的に構築する。 ○変革する共通テストや大学入試にカリキュラム編成を通して柔軟に対応していくために教育課程検討委員会を定期的に開催する必要がある。委員会や組織の改組も検討していく必要がある。		

生活指導部	・ルールマナーの徹底 ・時間厳守の精神の育成 ・帰属意識の育成	数値目標	○学校評価アンケート「学校行事」の生徒肯定評価85% 結果：94%であった。 ○遅刻の前年度比 ポストコロナの下で、遅刻者の増加が見られた。	A
		コメント	●生徒が主体となり、充実した学校行事を実施し、生徒の成就感や充実感を高めた。 ○週一回の学年生徒部と拡大部会を活用し、生徒の主体的な取り組み実現のために教員間のイニシアティブをより一層高めてボトムアップを意識させ、生徒指導に一丸となって取り組む。	
生活指導部・保健	生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。	数値目標	○定期健康診断で1年生全員面接終了 ○生徒理解のための研修開催（年1回以上） 結果：1年生の全員面接は実施できた。SCとの連携もスムーズであった。	B
		コメント	●第1学年の全員面接はスムーズに実施できた。時期に全教職員で共有し、活用する必要がある。 ●定期的にSCとの情報共有、特別支援教育に関する委員会を2回開催することはできたが、生徒理解のための研修会を全ては実施できなかった。 ●清掃や環境整備について、大掃除の重点項目を決めて計画的に、整理委員会が活性化するなど、清掃意識の向上が見られた。次年度は、美化活動の充実をプロジェクトとして行う。 ○YSW、SC、専門医を活用し、生徒理解や教育相談の充実に努める。	
進路指導部	教養人の育成を目指すことにより、「高い志の進路実現」を促す。	数値目標	○進学実績の維持（ ）は浪人も含めた数値 今季 昨年 結果：国公立計 46 (53) 43 (55) 早慶上理ICU 119(139) 123(136)	B
		コメント	●進路指導部と学年が連携した進路指導の充実を図った。学習指導員の時間を約2倍に増加させ、活用を充実させた。 ●模試分析会を5回開催し受験情報や生徒状況を適切に把握し、授業へのフィードバックや、3学年的担任団への受験準備支援を行った。 ○引き続き生徒に向けた「模試のお知らせ」を早期に示し、模試実施の意義等も意識させることをだけでなく、重点的に学習すべき内容も示して、効果の向上を図りたい。 ○全学年の校内模試で「問題分析」及び「小問別分析」を各教科で実施し、本校生徒の課題について教員が確認して教科指導に生かすこと。これも継続して行い、生徒の弱点を生徒教員ともに共有する。	
国際教育部	本校の特色である国際理解教育をより充実させることにより、生徒の幅広い「高い志の進路実現」につなげる。	数値目標	○学校評価アンケート「世界に向けて視野を広げる教育」の生徒肯定評価80% 結果：88.2%であった。	B
		コメント	●三田ESSPAとしてカナディアン・キャンプ、プリティッシュ・ヒルズ、TGGを活用するとともに春季に新規導入のポストンアカデミックツアーを実施し、英語の語学力を向上させるだけでなく、海外大学の訪問を通して留学に対する意欲と学びに関するモチベーションを向上させたことは成果であった。今後も準備と工夫及び対策をもって国際交流課活動を提供できるようにする。 ○ポストコロナによる活動再開とその推進、交流活動の機会が増加し、オンラインも積極的に活用し、より多面的な国際交流活動に取り組む。	
庶務部	・戦略的な広報活動の展開	数値目標	○校内学校見学会参加者数延べ2824人 ○一次応募倍率2倍の維持 校内学校説明会参加者数延べ1784人。 応募倍率は1.78倍であった。	B
		コメント	●施設紹介動画、学校の特色紹介動画、さらにオリジナルのシナリオで学校紹介動画を作成し、本校のHPや「#だから都立高」等のサイトから学校生活を発信することができた。 ●学校見学会・学校説明会のネット申込を円滑に行った。見学会では一度の募集で定員に達しない場合は柔軟に追加募集を行い、定員を満了し本校訪問の機会を確保した。 ●学校の特色と生徒の活躍が伝わりやすく、見やすい構成を工夫し、学校案内を一新した。 ○ウェブサイトの活用により部活動や学校行事等を広報し、情報発信の充実を図りたい。	
経営企画室	学校経営へ積極的に参加し、円滑な教育活動を支援する。	数値目標	○予算執行におけるセンター執行率58% 結果：センター執行率(49.4%)であった。	B
		コメント	●校内施設の老朽化に伴う施設改修を要望し、職員玄関前タイル修繕等を実施したが、今後も環境改善のため改築改修に向けた提案と要望を継続していきたい。 ●廃棄物処理を計画的に実施し、校内環境の整備、美化に資することができた。今後も計画的な環境整備を行ってきたい。 ○国の就学支援金や奨学のための給付金等の制度改正に応じて、生徒保護者への情報提供、早期の事務処理等適切に取り組む。 ○給排水衛生設備の不具合・不良箇所についての修繕や、教室等の鍵等安全にかかわる設備の計画的な修繕に取り組む。 ○自律経営推進予算と推進校予算を有効活用し、Tokyo GE-NET20・DX・探究学習・国際理解教育等に対する支援を適切に行う。予算のセンター執行率を向上させ、効率的な予算執行に取り組む。	